

算数オンライン塾 12月21日の問題解説

	A オリンピック	B オリンピック
金メダル	(5)	(3)
銀メダル	<2>	<1>
銅メダル	14	
合計	【8】	【5】

A オリンピックで取った銅メダルの数が 14 個でこれが 3 種類のメダルの中で一番多かったことから、金メダルの数は 10 個か 5 個になります。しかし金メダルが 5 個だと、合計は奇数になり、【8】にはならないことから、(5) = 10 個と決まりますから、B オリンピックでとった金メダルは 6 個です。

さらに、A オリンピックの金メダルの数と銀メダルの数の合計が 24 個になるので、合計【8】は 24 ではなく、32 以上になりますが、32 のときに<2> = 8 で、【8】が 40 になると<2> = 16 となり 14 を超えるので不適。したがって<2> = 8 から B オリンピックでとった銀メダルの数は 4 個。B オリンピックでとったメダルの合計は $32 \div 8 \times 5 = 20$ 個ですから、B オリンピックでとった銅メダルの数は $20 - 6 - 4 = 10$ 個になります。

(答え) 金メダル 6 個 銅メダル 10 個